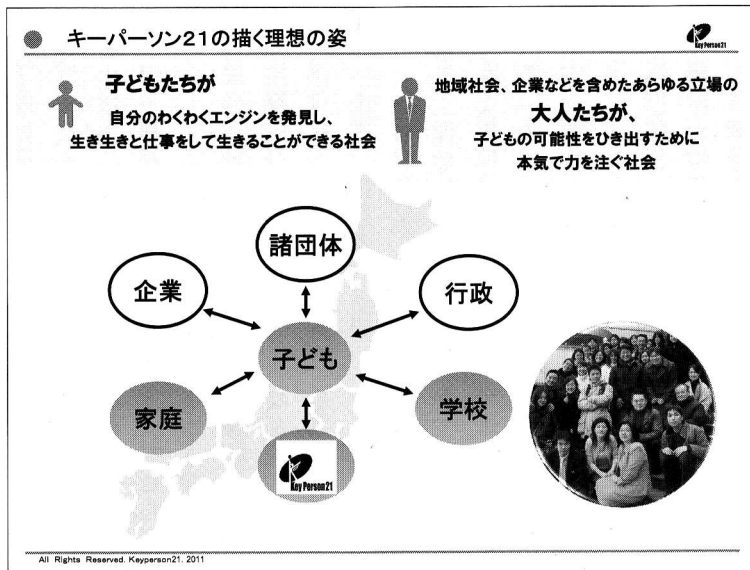


【企画連載】社会教育団体紹介

# 子どもが“わくわくエンジン”を発見して、 生き生きと生きる社会の実現に向けて

NPO法人キーパーソン21 代表理事 朝山あつこ



キーパーソン21を設立して11年が経った。人間で言えば、小学校6年生くらいまでの組織だろうか。まだ道半ばではあるが、当初より、二つのことを実現したいと思いついてきた。

一つ目は、「子どもが自分の“わくわくエンジン”を発見

し、生き生きと仕事をして社会で生きる社会の実現」。わくわくエンジンとは、誰もが必ずもっているわくわくして動き出さずにはいられないような原動力のようなもの

ことを指す。そして、二つ目は、「地域社会、企業などを含

めたあらゆる立場の大人たちが、子どもの可能性をひき出すために本気で力を注ぐ社会の実現」である。

この二つのことを融合し実現させるために、オリジナルのキャリア教育プログラムを開発し、これまでに2万5千

● プログラムの開発

講演	ワークショップ	個別サポート
おもしろい仕事人がやってくる	すきなものビンゴ&お仕事マップ	個別アクションプログラム
	コミュニケーションゲーム	
	かっこいい大人ニュース	

子どもの可能性を徹底的にひき出すわくわくエンジンを発見して火をつける

1. ゲーム形式
2. グループワーク形式
3. 大人参加型

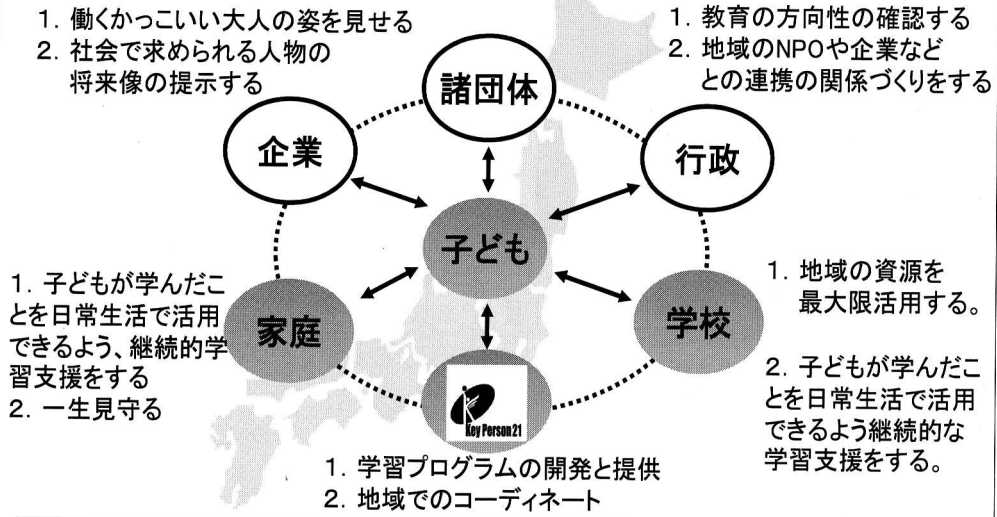
「私も結構イケル！」  
「将来のことを考えるの楽しい」  
「大人ってかっこいい！」  
「私にもできるかも！」

All Rights Reserved. Keyperson21. 2011

● キーパーソン21の描く理想の姿を実現するためのそれぞれの役割



 <p>子どもが 自分のわくわくエンジンを発見し、 生き生きと仕事をして生きる社会</p>	 <p>地域社会、企業などを含めたあらゆる立場の 大人たちが 子どもの可能性をひき出すために 本気で力を注ぐ社会</p>
--	---



All Rights Reserved. Keyperson21. 2011

人に及ぶ子ども達を対象に、キャリア教育の実践をしてきた。プログラムは、ゲーム性

をとり入れること、グループで行うこと、大人が参加すること三つのことにこだわって

「将来のことを考えたのははじめて！」「パイロットに興味をもった。自分の世界が広がった気がする」「自分のことがわかってないってことがわかった」「将来のことを考えだしたら、モヤモヤしてきて、もっと真剣に考えたくなった」「人には色々な道があって、その道をつくるのは自分だと思った」

「どうせ俺らなんか、ダメでしょう」「正直言ったら夢に迷っている」「自分に合ったものが見つからない」「今、自分は何をやりたいのかわからない」「仕事のイメージって厭なことしか思い浮かばない」「就職したくない」と言っている子どもがプログラム実施後には、次のように言葉が変わる。

11年前と比べると、キャリア教育はぐんと推進された。聖域だった学校は地域に開かれた学校へと変わってきた。今年1月26日に、文部科学省、経済産業省、厚生労働省主催のキャリア教育推進連携シンポジウムが開催された。学校や家庭任せの教育から脱皮して、企業、NPO、行政、PTA、学校、地域が手を取り

「自分のことだから自分で考えろっていつも言われていたけど、いっしょに考えてくれる人がいて、やる気がでた！」「自分のやりたい方向が見えた気がして、ドキドキした」「社会人の人と会って、こういう人になりたいと思った」「とても楽しくて、時間が一瞬にして過ぎてしまった」。こんな言葉の数々を聞いたときに、やめられない、と続けて11年が経ってしまった。

合って子ども達を育て、日本の未来を作って行こうという思いが伝わるシンポジウムだった。

キーパーソン21設立当時と  
の大きな変化に感慨深い思いがした。地域が繋がって子ども達を育てるというムーブメントが、国をあげて起きていると言えるとすれば、キーパーソン21が、実現したい二つのことのうちの一つ「大人たちが、子どもの可能性をひき出すために本気で力を注ぐ社会」は、徐々に実現に近づきつつあると言えるのかもしれない。NPO、企業、行政が手を取り合って明日の日本をつくろうとする意識は国全体に広がり、社会の課題解決を担っているNPOなどにプロボノとして参画する社会人も増えてつつある。そのような大人を育成するための環境や仕組みは、まだ充分とは言えないが。

生徒と大人たち



All Rights Reserved Keyperson21, 2011

一方でキーパーソン21が実現したいもう一つの「子どもが自分の『わくわくエンジン』を発見し、生き生きと仕事をして社会で生きる社会の実現」は、まだまだと感じた。アブ

ラックの創業者・最高顧問の大竹美喜氏もこの日の基調講演で、「好きで好きでしようがない事を仕事に！」と話されていた。子どもは毎日生まれて成長している。今の中学生も高校生も数年後には、社会をリードし、皆を守り、地球を守る大人になっていく。次の10年で、キーパーソン21は、「子どもが自分の『わくわくエンジン』を発見し、生き生きと仕事をして社会で生きる社会の実現」に、さらに力を注ぐ決心をしている。

もの意欲醸成は必要不可欠である。本事業では、高校生がもともと持っている将来への不安に加え、震災後さらに深まってしまった地元企業へ就職することへの不安という二つの不安を軽減し、復興の要となる人材の育成を目標とする。そのためには、一人ひとりの高校生が、自分のわくわくエンジンが何であるかに気づき、自らの役割に気づくことのできるプログラムと地元の人たちの力の両方が必要だ。学校、保護者、教育委員会、企業、大学、NPO、地域の振興に尽くす諸団体が連携して行う。

【ACCESS】

特定非営利活動法人キーパーソン21  
〒211-0004  
神奈川県川崎市中原区新丸子東2-1  
907-304  
TEL 044 (431) 0420  
FAX 044 (431) 0421  
<http://www.keyperson21.org/>